

第34期第15回研究会（第9～13・15回連続研究会）「検証ジャーナリズム 第6回 報道機関の第三者委員会を考える」（ジャーナリズム研究・教育部会、メディア倫理法制研究部会合同企画）のご案内

日 時：2015年5月23日（土）14：00～17：00

場 所：上智大学12号館4階 12-402教室

問題提起者：君和田正夫（ジャーナリスト、元朝日新聞副社長、元テレビ朝日社長）

山田健太（専修大学）

音 好宏（上智大学）

司 会 者：水島宏明（法政大学）

ジャーナリズム研究・教育部会、メディア倫理法制研究部会では、一連の朝日新聞報道の問題に焦点を当て、この問題を題材にしながら現在の日本のジャーナリズムを考える連続研究会「検証ジャーナリズム」を、5回にわたって企画・開催してきた。このシリーズの締めくくりとして、報道機関が設置する第三者機関のあり方について議論をする研究会を企画した。

メディア内で発生した不祥事に対して、メディアはどう向き合うべきか。メディアに求められる独立性の観点から、外部の力を借りることなく、自らの自浄能力で再生を果たすことは一つのありようだが、他方において、その再生の方向性が手前味噌に陥ることなく、社会的信頼を回復するためにも、第三者の目による検証が求められる傾向にあることもまた確かである。

この10年あまりのメディア界の様子を見てみると、放送倫理・番組向上機構（BPO）のように放送界全体で常設の第三者機関を設置した事例がある一方で、個別の事案について、第三者委員会を設置する例もある。もちろん、新聞、放送、出版といったメディアの違いによっても、その向きあい方は異なろう。

研究会では、朝日新聞で編集担当役員などを歴任した君和田正夫氏、講談社の「僕パパ事件」で第三者委員会のメンバーとなった山田健太会員、関西テレビ「あるある事件」で第三者委員メンバーとなった音好宏会員の3名に問題提起者となっていただき、報道機関における第三者委員会とは、こうしたメディアの違いによってどのような異同があるのか、メディアにとって第三者機関とはどういう意味を持つのかなど、広く議論を進めたい。

なお、この研究会は、上智大学メディア・ジャーナリズム研究所との共催で開催する。